

巨掠堤をぐらつゝみ

〔大和街道にして、伏見豊後橋より巨掠里まで凡五十町の堤なり。秀吉公の時築給ふ。いにしへは舟にて渡

りしなり。槇堤まきつゝみ、巨掠堤なき初めは宇治川のながれ落入て、西の方伏見川、淀の東にては木津川と合し、渺々たる一面

の入江なり。いにしへの大和路は木幡里より岡之屋を経て宇治橋を涉り、一之坂を越て巨掠の南広野に赴しなり〕

巨掠神社をぐらじんじや

〔巨掠里街道のひがしにあり。延喜式に出。祭神春日明神、若宮は本社の前西向にあり。土人生土神とす。

例祭は九月十日、神輿一基あり。伝へ云、当社はじめ祭る所の神賞罰嚴重にして、社地にある所の一枝を採にも神崇罵しきゆへに、他所に遷し、今の神を祀るなりとぞ。当所の杜和歌に咏ず〕

名 寄 宇治山の紅葉の色をかこふ哉をぐらの森のおぼつかなさよ

左 近

伊勢田神社いせだじんじや

〔巨掠の坤伊勢田村にあり。延喜式に出。後世梵天王社と称す、土人生土神とす。例祭は九月九日な

り〕

栗隈天神社くりこまだんじんやしう

〔伊勢田の巽大久保村にあり。順和名に載する久世郡栗隈里是なる歟。郷名はかはるといへども、神

号はいにしへの義を用るなり。祭神天満天神。例祭九月八日。当社及び是より南山城郷に至つて天満神の社多し。是則

ち延喜式に出る神代の天神にして、八百万の内なり。土人これを辨へずしてみな天満天神と称す、綴喜郡天神森のやしろ此類ひなり。○古此所に栗隈三宅くりこまみやけといふありしが和歌に咏ず」

くりこまの三宅みやけといふ所に、秋小鷹狩しにまかりけるに、

あこたにのくちに女郎花にたてるを見てよめる

夫 木 山かげの田口にたてる女郎花我ひとりのみ見るぞ悲しき

長 能

七ツ塚ななづか

〔大久保民家の西三町許にあり。此所に小塚七つあり、其間二三町を隔つ、四方みな田畠にして年々減少す

といへども、奇怪あるをもつて穿壊さずといふ〕

極本八幡宮あてもと はちまんぐう

〔大久保の西の方二十町ばかり、佐山村の林の中にあり、林中東西三町余、南北二町、森々として大

木多し。祭神石清水。近郷佐古市田林等の生土神とす、例祭は九月九日、神輿二基あり〕

放生川 〔いにしへ神殿の東にあり、今埋んで田となす〕武内祠〔同村の乾にあり〕〔八幡宮鎮坐記に曰、山城国久世郡

三郷村極本八幡宮は、清和天皇御宇貞観のはじめ、行教和尚宇佐八幡宮を男山に勧請し給ふ時、熊野の神職空頭橋良

基、勅をうけて和尚に従ふて鳩峯に神殿を営みける。其後此三郷の静境を愛して住所となさんと、榛荊を刈家宅を構ふ、

是より男山をとこに詣する事日々にして怠る事なし。又四隣に民慕ひ集りて、民戸軒をつらねて豊饒の地となる。こゝに西南

の方に大樹の榎木あり、梢高くして枝茂り、遠よりこれを見れば一つの青山の如し。時に崇徳院御宇しゅとくゐん天治二年の二月、

をとこやまはとのみね

男山鳩峯より毎夜金色の光来つて此梢を照す、一七日の後、此所の住人橋氏たちばなの支族同時に夢を見る。八幡宮此地に勸

請すべしとの霊夢によつて、即ち朝廷に奏聞して神光瑞現の地に神殿を建立し、榎本八幡宮と号し奉りぬ。又二条院でうの

応保一年に、勅願の御祈あつて勅使を立られ、当宮に勲一等を進めて榎本一品宮となし給ふ。しかのみならず神殿を造

営ありて、橋氏たちばなを以て宮司となしたまへり。又三郷の中に五箇の神宮寺あり、僧侶朝夕の法楽勤仕怠慢なかりしと云々。

右五ヶ寺と云は、西方寺さいほうじ、三福寺さんふくじ、淨福寺じやうふくじ、安樂寺あんらく、藥蓮寺やくれん」